全国学力・学習状況調査の概要

平成３０年度全国学力・学習状況調査は、平成２９年度に引き続き、全小中学校を対象に実施されたものです。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。調査結果については、あくまでも児童・生徒に対する評価の一側面を示すものであります。したがって、競争や順位づけを目的とするものではありません。児童・生徒の学力の実態や、生活習慣を含めた学習状況、またそれら相互の関連を分析し、教育課題を明確にした上で、教育のあり方及び教育施策の改善を図ってまいります。特に学校現場においては、児童・生徒への指導や学習活動の改善等に役立ててまいります。

藤井寺市教育委員会では、この調査の目的に沿って、本調査に参加いたしました。結果の公表については、保護者・市民の皆様に、学校教育及び家庭教育についての理解と協力を得ることが何よりも大切であると考え、本市・大阪府・全国を比較する形で、教科・区分〈A（主に知識）、B（主に活用）〉別の平均正答率、学力の背景にもなっている生活アンケート結果及び今回の調査を分析する中で見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と今後の教育課題についてお示しさせていただきます。

なお、学力調査結果の学校別平均正答率の公表については、序列化や過度な競争につながるおそれがあるため、これまで同様に行わないものとします。

（１）　調査の実施概要

① 実施日　平成３０年４月１７日（火）

② 実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全　国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校６年生	７校	474 人	992 校	73,084 人	19,733 校	1,043,420 人
中学校３年生	３校	547 人	470 校	69,791 人	10,473 校	1,008,090 人

③ 実施内容

【小学校】　国語Ａ（知識）　国語Ｂ（活用）
算数Ａ（知識）　算数Ｂ（活用）
理科（知識・活用）
質問紙調査（児童質問紙）

【中学校】　国語Ａ（知識）　国語Ｂ（活用）
数学Ａ（知識）　数学Ｂ（活用）
理科（知識・活用）
質問紙調査（生徒質問紙）

小学校について

※平成 29 年度より、大阪府・藤井寺市の正答率は整数での表記となっております。

小　学　校（6年生）【教科・区分別平均正答率】					
教科・区分	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
藤井寺市	67%	51%	62%	49%	57%
大 阪 府	68%	52%	63%	51%	57%
全国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%

小　学　校（6年生）【大阪府との平均正答率の差】					
教科・区分	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成 29 年度	-1	-1	2	0	
平成 30 年度	-1	-1	-1	-2	0

国　語

○知識面では、「物語を書くときの工夫として適切なものを選択する問題」（７２．６%）、「慣用句の使い方」（８９．２%）について高い正答率でした。全体的に府と類似した正答率、無回答率ですが、「目的に応じて必要な情報を捉える問題」（６９．６%）など、少し複雑な思考や判断が必要となる問題に関して課題が見られました。

○活用面では、全体的に府と類似した正答率、無回答率であったものの、「話し手の意図を捉えながら、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題」（２７．２%）、「目的や意図に応じ、文章全体の構成の効果を考える問題」（４８．３%）について低い正答率でした。また記述式の問題に関しては、府の無回答率（平均８．０%）に比べて、本市平均（１０．３%）と高く、課題が見られました。

算　数

○知識面では、「数と計算」（６１．７%）「量と測定」（７２．１%）「数量関係」（６０．５%）で、計算や数量関係では府と類似した傾向が見られました。しかし、「図形」（５２．３%）では、他の領域と比べると正答率は低く課題が見られました。

○活用面では、「数と計算」（５６．２%）「量と測定」（４９．５%）「図形」（５７．１%）「数量関係」（４２．７%）で、府の正答率と比べるとすべての領域でやや低い数値になりました。「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察することができる問題」（６３．８%）で府の正答率を上回っています。しかし、「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が３６０°になっていることを記述できる」（４６．９%）といった記述式の問題に関しては正答率が低く、また無回答率（１６．０%）も高くなる傾向が見られました。

理　科

○「骨と骨のつなぎ目を表す科学的な言葉や概念の理解」（７７．８%）については、府よりも高い正答率で、自然事象についての知識・理解に一定の定着が見られました。しかし、「ろ過の適切な操作方法の問題」（６６．７%）や「電流の流れ方について結果を見通して実験を構想する問題」（４１．１%）は府よりも正答率は低く、科学的な思考・表現、技能について課題が見られました。

○記述式の問題である「流れる水の量が増えた時の地面の削られ方」（２０．７%）、「食塩水を熱したときの蒸発」（３１．０%）について、どちらも府より高い正答率でしたが、いずれも無回答率（６．６%）は府（５．５%）よりも高く、実験結果を基にした内容を記述することに課題が見られました。

中学校について

※平成 29 年度より、大阪府・藤井寺市の正答率は整数での表記となっております。

中　学　校（3年生）【教科・区分別平均正答率】					
教科・区分	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
藤井寺市	74%	57%	62%	42%	62%
大 阪 府	75%	59%	65%	46%	64%
全国	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%

中　学　校（3年生）【大阪府との平均正答率の差】					
教科・区分	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成 29 年度	-1	-5	-5	-4	
平成 30 年度	-1	-2	-3	-4	-2

国　語

○知識面では、正答率が「漢字を読む」（９６．４%）で基礎的な力が定着している一方で、「語句の意味理解」では正答率が高い（９３．９%）問いや逆に低い（３０．３%）問いもあり、知識に偏りが見られました。書く領域においては、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」の問いについて、正答率が１４．８%と、府の平均（２４．４%）に比べて低く、意図を持って伝えたい事実や事柄について分かり易く書くことに課題が見られました。

○活用面では、正答率が「質問の意図を捉える」（８２．８%）「必要に応じて質問する」（８８．０%）と、話す・聞く力については概ね定着しています。一方で「内容を整理して書く」（１１．６%）、「相手に的確に伝わるように，あらすじを捉えて書く」（４４．３%）と、自分の考えが、相手に伝わるように書く記述式の問題に課題が見られました。

数　学

○知識面では、「数と式」（６８．３%）「図形」（６４．３%）「関数」（５２．６%）で、府の正答率と比べるとやや低い数値になりました。「資料と活用」（５５．３%）については、他の領域と比べると正答率はさらに低くなっており、課題であると考えております。特に、「最頻値の意味理解」の問題で府との差が大きく、生徒の正答率が低いことが分かりました。

○活用面では、「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる」（３２．５%）「発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる」（３６．２%）といった記述式の問題に課題がありました。しかし、府の無回答率（平均２６．３%）と比べるとほとんどの問題で低くなる（平均２４．１%）傾向にあり、あきらめずに解いてみようという意識が高くなっていることが分かりました。

理　科

○「太平洋高気圧の特徴についての知識」（５８．０%）、「ガスバーナーの空気の量を調節する場所」（６０．１%）、「神経系の働きについての知識」（５１．９%）といった主に知識・理解を問う問題についての正答率が低く、科学的な言葉や概念の意味理解や、器具の操作についての知識理解に課題が見られました。

○「無背椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴」、「風向の観測方法や記録の仕方」の問題については無回答率が０%、理科全体での無回答率も５．１%でした。さらに記述式の問題においても、無回答率は１３．８%と全国（１５．１%）や府（１５．６%）よりも低い数値で、意欲的に課題に取り組んでいました。しかし記述式の問題については、正答率は４４．８%と低く、科学的な思考の表現について、まだまだ課題が見られました。